

令和5年度 学校関係者評価に関わる改善結果

	指摘事項	改善策	部会	担当	結果
1	情報機器を適切に活用するため、保護者と共通認識をもち、子ども達にメディアバランスの指導を行う必要があること	タブレット端末の使用に関するルールを教員や代表委員会の児童を中心に検討した。ルールを基によりよくタブレット端末を使用できるよう更に指導を行っていく。	研究推進部	教科外	タブレット端末の使用方法について児童同士で声を掛け合うなど、使用方法やルールを意識することができるようになってきている。しかし、一部の児童については課題が残るため、次年度以降も引き続き指導を行っていく。
2	保護者が困りごとを学校に気軽に相談できるよう、校務の多忙が、学校と家庭双方のやり取りの阻害要因とならないように工夫する必要があること	令和5年度から本格稼働となる新校務システムを活用することにより、教員間の連絡や通知表作業の負担を軽減していく。また、保護者とコミュニケーションを取る機会を増やすため、保護者は1・2・3年おそろと4・5・6年を分けて実施する。	教務部 生活指導部	教科外	相談しやすい環境になりつつある。個人的なやりとりの時間がなかなか取れない。来年度は、個人面談の期間を5月の頭と12月にもする。 保護者会が低学年と高学年で別日になったため、保護者会後に保護者の方と個別にお話しできる機会、時間の余裕が持てた。 教職員間での情報共有の場として使用しているC4th、teamsだが、いずれかしが見れない方がいるため双方に提示する必要があり、二度手間になるなど時間の効率化が図れていない。
3	キャリア教育を充実させ、保護者への理解の促進を行うこと	キャリアパスポートを効果的に使用できるようにし、児童に活用方法を指導することや保護者と共有することを充実させる。	研究推進部	教科外	キャリアパスポートの活用についてはこれからも検討していく必要がある。次年度から通知表の表記内容や計画に変更があるため、キャリアパスポートの使用方法について検討を行い、活用の充実を図る。
4	学校重点目標について、保護者の理解を促す機会を設けること。	先ずは、教員がしっかりと学校重点目標を理解する必要がある。そして、保護者会時に学校重点目標について学年・学級で説明する機会を設ける。各学期ごとに学校重点目標について振り返る期間を設けるなど、目標を意識した教育活動を展開していく。	教務部	教科外	今年度も無回答が多かった。保護者会で伝えるだけでなく、学校だよりなどでも話題として取り上げ、伝えていく。
5	学校生活における、児童の辛さについて学校・保護者双方の認識を高めること。	今年度は、単P研修会が対面で開催されたため、教員と保護者でのやり取りができた。保護者会や個人面談、電話対応等で丁寧に対応している。学校で実施しているQ&Uの結果も保護者に伝えているので、今後も継続していく。	生活指導部	生活指導	コロナ禍での行事における人数制限が解け、学校公開など様々な場面で学校や児童の様子を保護者の方々に見ていただける機会が増えた。そのため、より日頃の学校での活動や児童の様子について対面で伝えることができる場も増えて。
6	幼稚園・小学校・中学校との連携活動について児童、保護者、地域への周知を図ること。	年間3回の学び舎の日の活動をホームページに取り上げたり、学年便りで中学校との連携について記事を書いたりする。	教務部	教務	学び舎についての情報提供がされているについては、改善が見られた。今後も、学校だよりを利用し、取り組みについて知らせていく。
7	学校の様子が地域の方に分かるようにすること	ホームページへのup数は、今年度と同じ位の回数とし、年間で600回程度のupを目指す。また、学校便りの裏面には、児童の感想や学年の取り組み内容を載せるようにし、ホームページが見られない方にも学校の様子が伝わるようにする。	教務部	教務	ホームページに必要な情報を保護者に提供しているについては、保護者からはおおむね肯定的な回答だったが、教員からは、なかなかUPができなかったと反省も出ている。学年によってUPの数も違うので、様々な様子をお伝えできるように工夫をしたい。
8	学校協議会・合同学校協議会・学校運営委員会などの会議体についての活動を理解してもらうこと	学校運営委員会で話し合った内容については、毎回、学校運営委員会だよりとして保護者と地域の方に配布している。	教務部	教務	コロナ禍明け、久しぶりにPTA・地域の方々と教職員とで学校協議会を行うことができた。様々な意見を交わし充実した会とすることができたため、これからも継続して行っていくとともに、情報発信を広く行うよう努める。
9	学校と家庭との連携を図ること	コロナ禍により、保護者が学校に来校する機会が減ってしまった。現在は、コロナ禍前に戻りつつあるので、多くの保護者に授業や行事などを参観してもらう。そして、保護者会や面談で児童の様子などについて共通理解し、連携していく。	教務部	教務	学校公開は参観の制限なくすることができ、たくさんの方に見てもらうことができた。個人の様子については、なかなかお伝えする時間がとれないこともあり、来年度は個人面談の期間を2回にしたいと考えている。
10	地域と関わることが減っていること	コロナ禍により減っていた地域行事や地域の人との交流も元に戻りつつある。夏休みのラジオ体操や防災訓練など、多くの児童が参加しているので、より多くの児童が地域行事に参加できるよう教員も促していく。	教務部	教務	学校が地域に協力的であるについては、おおむね肯定的な評価だった。
11	安全確保について	月1回の安全指導では、児童の成長に即した指導内容を実施する。避難訓練では、火事・地震・不審者などに対応できるよう、訓練後に自分の行動を振り返る時間を設ける。児童一人一人の安全に対する意識を高めていく。	生活指導部	生活指導	避難訓練毎に教職員に向け反省アンケートをとり、実際の災害等に対応できるよう常に修正を加え、改善策を検討している。訓練後、各学級での指導を行い、児童と振り返りの時間を設けることで、避難訓練の大切さを伝えることができた。
12	学校運営について、地域に広報や説明の機会を設けること	ホームページに学校運営に関する情報があることを伝える。	教務部	教務	地域に情報を提供しているについては、わからないと答えている保護者が多い。引き続き、HPや学校だより等で情報を提供していく。